

令和6年度 大阪府 国民健康保険事業 決算のポイント

1 単年度収入の構成

○ 単年度の収入は、公費（国費及び府費）が約38%、事業費納付金（保険料等）が約36%、前期高齢者交付金（他保険者からの支援金）が約27%で構成される。

・ 公費（国庫支出金、特別高額医療費共同事業交付金、府一般会計繰入金）	2,969億90百万円	構成比：37.81%（対前年比+0.25%）
・ 事業費納付金（保険料等）	2,792億95百万円	構成比：35.56%（対前年比+0.53%）
・ 前期高齢者交付金	2,087億06百万円	構成比：26.57%（対前年比▲0.77%）

※国庫支出金（2,413億86百万円）の内訳

療養給付費等負担金1,543億33百万円、高額医療費負担金80億83百万円、特別高額医療費共同事業負担金5億60百万円、特定健康診査等負担金8億06百万円、普通調整交付金621億79百万円、特別調整交付金69億24百万円、保険者努力支援制度交付金85億02百万円

2 単年度支出の構成

○ 単年度の支出は、保険給付費等が約79%、後期高齢者医療への支援金が約15%、介護保険への納付金が約6%で構成される。

・ 保険給付費等交付金及び特別高額医療費共同事業	6,115億13百万円	構成比：79.40%（対前年比▲0.14%）
・ 後期高齢者支援金等	1,145億05百万円	構成比：14.87%（対前年比+0.50%）
・ 介護納付金	423億31百万円	構成比：5.50%（対前年比+0.12%）

3 単年度収支差及び次年度繰越額

○ 単年度収支差は、152億62百万円の黒字となっている。この収支差に対し、以下の調整を行った結果、次年度繰越額は274億25百万円となる。

・ 次年度繰越額 = 単年度収支差 + 昨年度繰越金（144億38百万円） + 財政安定化基金貸付金返還金（50百万円）
+ 基金繰入金（60百万円） - 基金積立金（▲23億26百万円） - 基金貸付金（▲60百万円）

4 令和6年度実質収支

○ 次年度への繰越額（274億25百万円）は、令和6年度末における「形式的な」収支差となる。

○ 療養給付費等負担金等は、年度当初の交付決定後、年度中に数回に分けて概算交付され、額の確定及び精算は翌年度（令和7年度）に行われることから、精算時に追加交付又は返還が生じる仕組みとなっている。そのため、実質収支においては、これらの精算に伴う返還等を加味して算出する必要がある。

○ 令和6年度は、療養給付費等負担金が令和5年度に続き追加交付見込みとなる状況。

（実質収支反映要素）

➢ 療養給付費等負担金	38億99百万円（追加交付見込）
➢ 高額医療費負担金	7百万円（追加交付見込）
➢ 保険者努力支援制度	3億07百万円（返還見込）
➢ 会検指摘等による返還見込額	2百万円（返還見込）



【令和6年度実質収支】

歳入：8,038億81百万円（7,999億75百万円+39億06百万円）
歳出：7,728億59百万円（7,725億50百万円+3億09百万円）
収支差引残：310億22百万円（対歳出比4.0%）の黒字

※出典：事業年報B表（令和8年3月2日時点） ※単位：百万円、%（小数点第2位まで）単位未満四捨五入により合計値は合わない場合がある。

令和6年度 大阪府内43市町村総計 国民健康保険事業決算のポイント

1 単年度収入の構成

○ 単年度の収入は、都道府県支出金（普通交付金含む）が約68%、保険料収入が約20%、一般会計繰入金が約12%で構成される。

・ 都道府県支出金（うち普通交付金）	6,029億55百万円	構成比：67.36%（対前年比▲1.44%）
・ 保険料収入	1,776億23百万円	構成比：19.84%（対前年比+1.05%）
・ 一般会計繰入金	1,041億39百万円	構成比：11.63%（対前年比+0.64%）

2 単年度支出の構成

○ 単年度の支出は、保険給付費が約66%、国保事業費納付金が約31%、総務費が約2%で構成される。

・ 保険給付費	5,920億01百万円	構成比：66.03%（対前年比▲0.70%）
・ 国保事業費納付金	2,792億95百万円	構成比：31.15%（対前年比+0.44%）
・ 総務費	171億52百万円	構成比：1.91%（対前年比+0.25%）

3 単年度収支差等の状況

○ 単年度収支差では、黒字が16市町村（16億70百万円）、赤字が27市町村（▲31億47百万円）となっている。

- ・ 単年度収支差の黒字は、5年度 2億31百万円 → 6年度 16億70百万円（14億39百万円 対前年比622.94%）となっている。
- ・ 単年度収支差の赤字となっている27市町村は、前年度繰越金等の活用により収支差引は黒字となっている。

○ 収支差引額では、黒字が41市町村（60億65百万円）、赤字が2市町村（▲8億14百万円）となっている。

- ・ 累積赤字団体は、5年度から変わらず、2団体となっている。
- ・ 繰上充用の額は、5年度 9億38百万円 → 6年度 8億14百万円（▲1億24百万円 対前年比▲13.22%）となっている。

○ 純資産では、黒字が40市町村（373億66百万円）、赤字が3市町村（▲8億27百万円）となっている。

- ・ 純資産は、5年度 380億31百万円 → 6年度 365億40百万円（▲14億91百万円 対前年度比▲3.92%）となっている。

※基金等保有額及び次年度繰越額の増減について

基金等保有額は、5年度 334億45百万円 → 6年度 314億77百万円（▲19億68百万円 対前年比▲5.88%）

次年度繰越額は、5年度 55億72百万円 → 6年度 59億35百万円（▲3億37百万円 対前年比▲6.03%）

⇒ 令和5年度に生じた単年度収支差の赤字傾向は引き続き生じ、純資産も減少しているものの、単年度収支差で黒字となる市町村が増加しているとともに、次年度繰越額が対前年度比で増加に転じている状況。

※出典：事業年報B表（令和8年3月2日時点）

※単位：百万円、%（小数点第2位まで） 単位未満四捨五入により合計値は合わない場合がある。